

EMコール訓練



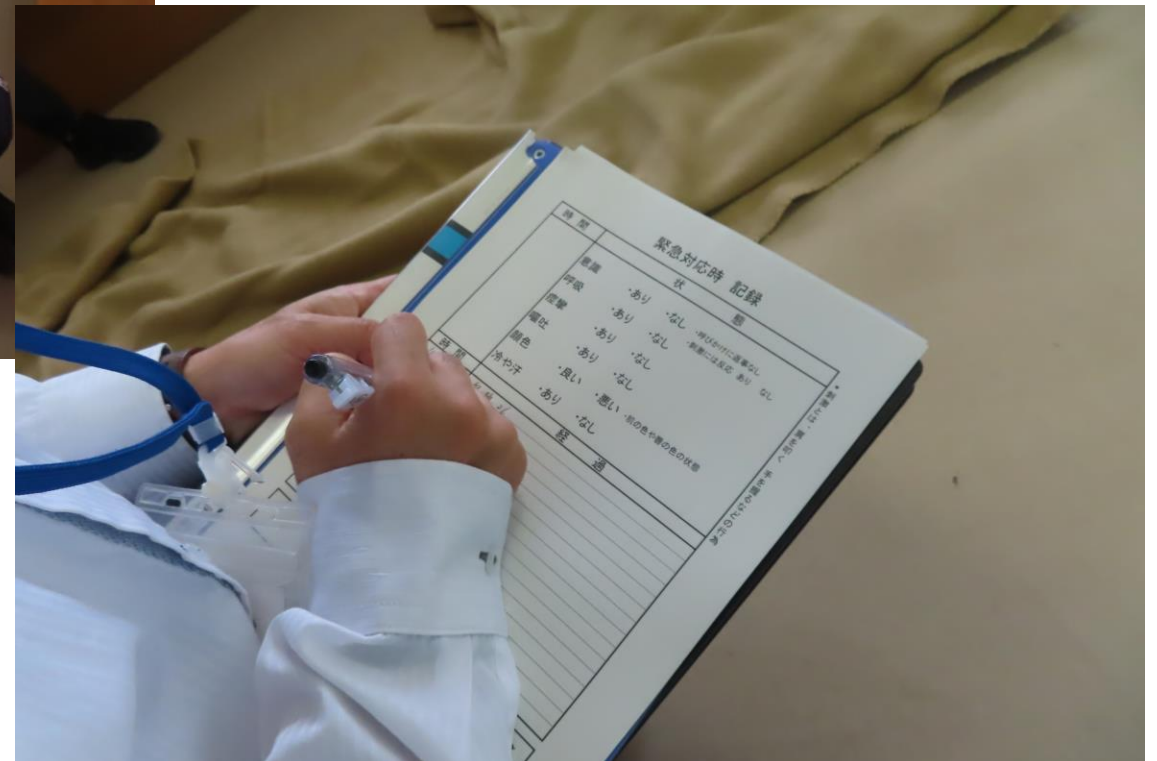
声を聞きつけた教員が近くの電話機から全校放送機能で「EMコール」を入れます。校内の教職員は他の生徒の安全確保に必要な人員を残して、直ちに指定された場所に駆け付けます。

EMコール訓練の様子をご紹介します。
「EMコール」とはエマージェンシー・コールのことで、生徒が重篤な状況に陥った非常事態での緊急招集のことです。
発見した教員は、直ちにあらん限りの大声で周囲の教職員を呼びます。今回の訓練ではなかなか教職員が通りかからない状況でしたが、第一発見者の教員は、生徒のそばを離れることなく、何度も叫び続けていました。





集まった教職員の手で、次々と役割をこなしていきます。AEDの搬入、救急車手配、保護者や主治医への連絡、衝立設置などが行われました。



処置の記録も大切になってきます。
心拍数や血中酸素濃度など、養護教諭の傍らで逐一漏らすことなく記録していきます。
今回は養護教諭や保健師さんがいましたが、不在の時にはすべての教職員がその役割を果たします。



CPRは救急車到着まで絶え間なく続けます。
そのためには交代しながら行うことが必要です。
「え？私が？」などと言う教職員は一人もいません。
横たわっているのが訓練用の人形でなく、生徒
だったら、と思うと・・・起こってほしくないこと
ですが、万一の時にも「絶対に我々が命をつな
ぐ！」と思える訓練でした。

